

対象学科	事務職養成		学 科	授業科目	工業簿記 I					
氏名	友上 真弓			授業の方法	講義					
実務経験	有	無	実習	ソフトウェアおよび関連サービスの企画と開発、提供する会社に勤務し、開発とサポートを中心に実務経験を積んだ。						
対象学年	1	年生	年間授業時数	140	時間	学期	前期	後期	通年	○
【授業目標】										
一般企業の事務職(特に経理事務)において必須とされる複式簿記の理解をさらに進めるとともに、その過程で、企業についての理解や事務職の心得などの学習をさらに進める。										
【到達目標】										
日本商工会議所・簿記検定試験(2級)の受験及び合格を第一の目標とする。										
【授業計画】										
<ol style="list-style-type: none"> 1 工業簿記の基礎と勘定連絡図 2 材料費 I (材料費の分類と材料の購入) 3 材料費 II (材料の消費と棚卸減耗費) 4 労務費 I (労務費の分類と賃金の支払) 5 労務費 II (賃金の消費と予定計算) 6 経費 7 過去試験問題による演習 I 8 過去試験問題による演習 II 9 個別原価計算 I (製造間接費の実際配賦) 10 個別原価計算 II (製造間接費の予定配賦と差異分析) 11 部門別個別原価計算 I (製造部門費と補助部門費) 12 部門別個別原価計算 II (製造部門費の予定配賦) 13 過去試験問題による演習 III 14 過去試験問題による演習 IV 15 総合原価計算 I (月末仕掛品の評価方法) 16 総合原価計算 II (加工費の予定配賦) 17 総合原価計算 III (仕損費の処理) 18 総合原価計算 IV (工程別総合原価計算) 19 総合原価計算 V (組別・等級別総合原価計算) 20 過去試験問題による演習 V 21 過去試験問題による演習 VI 22 標準原価計算 I (標準原価計算の手続と計算) 23 標準原価計算 II (原価差異の分析—材料費と労務費) 24 標準原価計算 III (原価差異の分析—製造間接費) 25 直接原価計算 I (全部原価計算との相違) 26 直接原価計算 II (短期利益計画・CVP分析) 27 過去試験問題による演習 VII 28 過去試験問題による演習 VIII 29 直前予想問題による模擬試験 I 30 直前予想問題による模擬試験 II 										
【授業評価方法・注意】										
本校の規定に基づき、次の割合で総合的に評価する。										
①出席点 40点 ※40×出席率										
②授業成果物 30点 ※授業成果物の状況に応じて(0、5、10、15、20、25、30点)										
③学習状況 30点 ※興味関心意欲等の状況に応じて(0、5、10、15、20、25、30点)										
【教科書等】										
<ul style="list-style-type: none"> ・TAC(株)『合格テキスト日商簿記2級』 ・TAC(株)『合格トレーニング日商簿記2級』 										